

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/05/01

## 円安一服、次のテーマを模索へ

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	➡	<b>株価睨みの展開へ</b> 予想レンジ: 124.00円~132.00円	2-3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	➡	<b>米・欧の金融政策はともに緩和姿勢</b> 予想レンジ: 1.2780~1.3350ドル	4-5
<a href="#">ポンド/円</a>	➡	<b>主体性乏しい相場に</b> 予想レンジ: 147.50 ~ 155.00 円	6-7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	➡	<b>米緩和政策へ思惑次第</b> 予想レンジ: 1.5200 ~ 1.5850 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# EUR/JPY

## ユーロ/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	120.79円	131.11円	119.10円	128.31円



①	4日、日銀は黒田新総裁の下で初となる金融政策決定会合を開き「長期国債の月間の購入額をグロスで4兆円から7兆円へ変更。さらに対象期間は40年債まで」「長期国債は年50兆円ペースで増額し、2013年末140兆円、2014年末190兆円(2012年末残高実績:89兆円)とする」「上場投資信託(ETF)は年間1兆円増額、不動産投資信託(REIT)は年300億円増額」「マネタリーベースは2013年末に200兆円、2014年末に270兆円になる見通し」等とする「質的・量的緩和」の導入を発表した。市場の想定を上回る内容の「異次元緩和」に円売りが活発化すると124.58円まで5円以上の大幅上昇となった。
②	5日、米3月雇用統計の非農業部門雇用者数等の伸びが予想を大幅に下回った事を受けてドル/円が下落すると小幅につれ安となったが、ユーロ/ドルの上昇が支えとなり下値は限定的であった。その後、前日の日銀による緩和強化を手掛かりに円売りが再開すると127.78円まで続伸した。
③	11日、ドル/円に100円突破を狙った仕掛け的な買いが入るとユーロ/円も連れ高となった。NYダウ平均が史上最高値を更新して14880ドル台まで上伸した事も買い材料となり、131.11円の高値を付けた。
④	15日、前営業日12日に「日本は通貨安政策を避けるべき」などとする米財務省為替報告者が発表された事を受けて円買い優勢で推移する中、中国第1四半期国内総生産(GDP)が予想を下回った事や、NY市場クローズ間際にボストンマラソン会場付近で2度の爆発が起きた事を受けてリスク回避の円買戻しに拍車がかかった。ユーロ/円は翌16日の東京市場オープン直後に124.95円まで下落した。
⑤	19日、G20財務相・中央銀行総裁会議の前に麻生財務相が「日本の政策に対して異論は出なかった」などと発言すると円売りが優勢となった。さらにG20が「日本の最近の政策はデフレ脱却と国内需要支援を目的とするもの」などとする声明を採択して終了すると、週明け22日の東京市場では130.30円台に上昇して取引が始まった。
⑥	23日、独4月製造業PMIが47.9、同サービス業PMIが49.2といずれも予想(49.0、51.0)を下回ると、5月ECB理事会での利下げ観測を絡めてユーロが下落。ユーロ/円は一時128円を割り込んだものの、利下げ期待から欧州株が上げ幅を拡大すると買い戻しに転じ、129円台を回復した。
⑦	26日、日銀が全会一致で金融政策の現状維持を決定すると円を買い戻す動きが強まった。さらに米第1四半期GDPが予想を下回り、ドル/円が97円台に下落すると、127.14円まで下落した。
⑧	29日、前日にイタリアでレッタ新政権が発足した事を好感して、同国10年債利回りが3.9%台に大きく低下し、欧州株は軒並み上昇した。さらに米住宅関連指標の好結果を受けてNYダウ平均が上げ幅を拡大すると128.59円まで上値を伸ばした。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/JPY

## 今月のポイント

4月のユーロ/円相場は119.10円～131.11円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約6.2%の上昇（ユーロ高・円安）となった。日銀が4日に発表した「量的・質的緩和」による円安が主導する形で、11日には2010年1月以来となる131円台に上伸。その後、12日から15日にかけて、金や原油など資源価格の暴落、中国成長率の鈍化、ボストン・テロ騒動などのショックが相次ぎ、16日には一時125円台を割り込んだものの、円安けん制が懸念された19日のG20を無難に通過すると円売り・ユーロ買いが再開した。もっとも、ECBの利下げ観測が台頭した事などからユーロの上値は限られ、月末には一時127円台に押し戻されるなどやや伸び悩む格好で4月の取引を終えた。

5月については日銀による追加緩和は見込めず、本邦発の円安材料は期待しにくい。したがって、円相場は主要国の株価が上昇すれば円安、下落すれば円高と株価睨みの展開となりそうだ。株価動向を左右するという観点から、米国や中国の主要経済指標はユーロ/円相場にとっても重要であろう。

また、ECBの利下げ観測については、メンバーの中で最もタカ派と見られていたバイトマン独連銀総裁までもが利下げ容認発言を行なった事などから5月利下げの可能性が高まっている。もっとも、ECBの（利下げを含む）金融緩和強化が、域内景気の底打ち感を強める事になれば、単純に、利下げ＝ユーロ安とはならない可能性がある。この点からも、ECBの決定と欧州株の動向に注目が必要であろう。（神田）

（予想レンジ：124.00～132.00円）

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

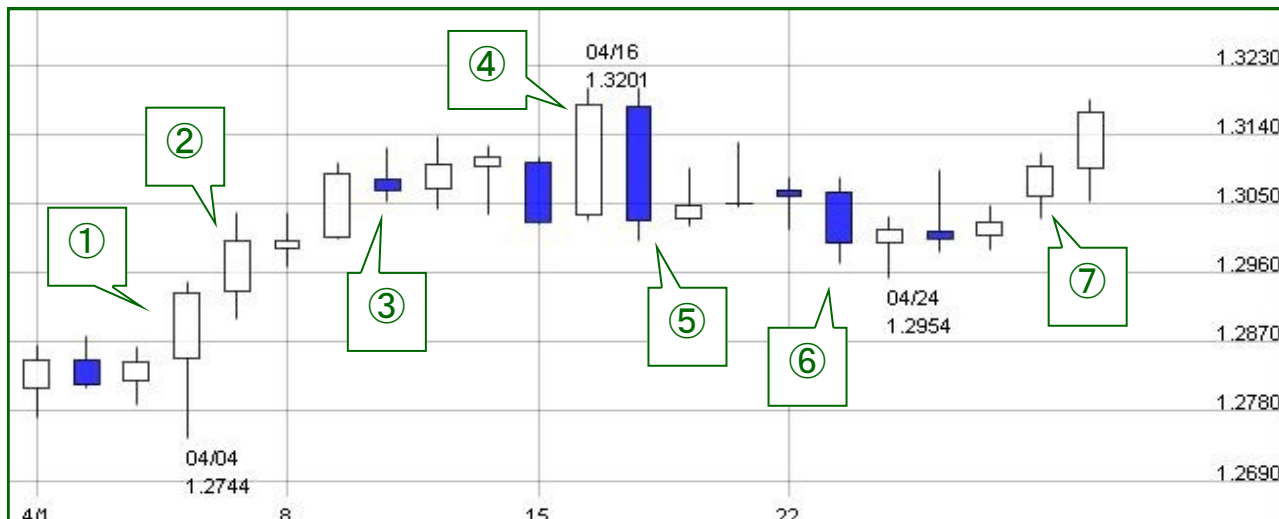
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(水)	4月米ADP全国雇用者数	5/22(水)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
	4月米ISM製造業景況指数		4月通関ベース貿易収支
	FOMC政策金利発表	5/23(木)	5月独PMIサービス業/製造業・速報
5/2(木)	ECB政策金利発表		5月ユーロ圏PMIサービス業/製造業・速報
5/3(金)	4月米雇用統計		5月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	4月米ISM非製造業景況指数	5/24(金)	5月独IFO景況指数
5/6(月)	3月ユーロ圏小売売上高	5/29(水)	5月独消費者物価指数・速報
5/8(水)	3月独鉱工業生産	5/30(木)	第1米四半期GDP・改定値
5/9(木)	4月中国消費者物価指数	5/31(金)	4月ユーロ圏失業率
5/13(月)	4月米小売売上高		5月ユーロ圏消費者物価指数・速報
5/14(火)	3月独・ユーロ圏ZEW景況感調査		
5/15(水)	第1四半期独・ユーロ圏GDP		
5/16(木)	4月米住宅着工件数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# EUR/USD

## ユーロ/ドル 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.2811ドル	1.3201ドル	1.2744ドル	1.3168ドル



①	4日、欧州中銀 (ECB) は政策金利を0.75%に据え置くと発表。その後、ドラギ総裁が会見で「経済見通しのリスクは下向き」と発言した上、一部で期待されていた中小企業支援策 (担保基準の緩和) が見送られた事からユーロ売りが強まると1.2744ドルの安値を付けた。しかし、同総裁が「キプロスに関する合意 (銀行預金への課税など) は今後の救済の雛型ではない」と述べた事がきっかけとなり買戻しが優勢となった。日銀の「量的・質的緩和」導入を受けてユーロ/円が上昇した事も支援材料となった。
②	5日、米3月雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比8.8万人増と予想 (19.0万人増) を大きく下回り、失業率については7.6%と前月から0.1%改善したものの、労働力人口の減少 (労働参加率の低下) が主因であった。これを受けてドル売りが強まると1.30ドル台へ急伸した。
③	10日、米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録が予定より早く公表され「数人のメンバーは年末までの量的緩和停止を想定」「複数のメンバーは今年半ばに量的緩和縮小を想定」していた事が明らかになった。これを受けてドル買いが強まると1.3052ドルまで軟化した。
④	16日、独4月ZEW景況感調査が36.3と予想 (41.0) を下回ると1.3028ドルまで軟化。しかし、スペイン国債入札が無難に消化された事などから売り一巡後は買戻しが優勢となった。その後、米3月住宅着工件数が103.6万件と予想 (93.0万件) を大幅に上回った事を受けてユーロ売り・ドル買いで反応したものの、強い住宅着工件数を好感してNYダウが上昇すると再び買い優勢に転じ2月以来となる1.3201ドルの高値まで上伸した。
⑤	17日、独連銀のバイトマン総裁が「新たな情報によって正当化されるならECBは利下げに踏み切る可能性がある」などと発言。タカ派で知られる同総裁の利下げ容認発言にユーロ売りが活発化し1.3001ドルまで大幅に下落した。
⑥	23日、独4月製造業PMIが47.9、同サービス業PMIが49.2といずれも予想 (49.0、51.0) を下回ると、5月ECB理事会での利下げ観測を絡めてユーロが下落。ユーロ/ドルは一時1.30ドルを割り込んだものの、利下げ期待から欧州株が上げ幅を拡大すると買戻された。
⑦	29日、前日にイタリアでレッタ新政権が発足した事を好感して、同国10年債利回りが3.9%台に大きく低下し、欧州株は軒並み上昇した。これを受けてユーロ/ドルは1.31ドル台を回復。ただ、NYダウ平均が100ドル超の上昇となるも、来月2日のECB理事会での利下げ観測が上値を押さえ1.30ドル台に押し戻された。



## EUR/USD

## 今月のポイント

4月のユーロ/ドル相場は1.2744～1.3201ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.8%の上昇（ユーロ高・ドル安）となった。3月に起きたキプロスショックが他の問題国に波及しなかった事や、日銀による「量的・質的緩和」の効果でユーロ高・円安が進んだ事などから16日には約2カ月ぶりに1.32ドル台を示現した。ECBの利下げ観測が上値を抑える場面も見られたが、月末には米FOMCの量的緩和縮小観測が後退し、ドル高修正が進んだ事から再び1.32ドル手前までユーロ高に振れた。もともと、上昇したとはいえ、4月の値幅は450pips強にとどまっており、明確な方向感を持った上昇とは言えないだろう。2月から3月にかけて続いたユーロ安の反動に過ぎないと見る事も出来よう。

ユーロ/ドル相場は、5月についても明確な方向感は出にくいだろう。米FOMC(1日)では、量的緩和の維持と場合によっては景気判断の下方修正が見込まれており、どちらかといえばドル売り(ユーロ買い)材料になりやすい。一方で、ECBは2日の理事会で利下げを含む金融緩和が見込まれており、どちらかといえばユーロ売り(ドル買い)材料になりそうだ。FOMCとECBがともに市場予想の通りに動けばユーロ/ドル相場は1.28～1.33ドルの大まかなレンジを抜ける事はなさそうだ。ただ、米・欧双方の緩和姿勢はいずれも株価にはポジティブと見られる事から、「5月株安」のジンクスを打破して主要国の株価が上昇基調を維持出来れば、4月に続きややユーロ高・ドル安に振れる可能性はあるだろう。(神田)

(予想レンジ1.2780～1.3350ドル)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(水)	4月米ADP全国雇用者数	5/16(木)	4月米消費者物価指数
	4月米ISM製造業景況指数	5/17(金)	5月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	FOMC政策金利発表	5/22(水)	4月米中古住宅販売件数
5/2(木)	ECB政策金利発表		米FOMC議事録(4月30・5月1日分)
5/3(金)	4月米雇用統計	5/23(木)	5月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	4月米ISM非製造業景況指数		4月米新築住宅販売件数
5/6(月)	3月ユーロ圏小売売上高	5/24(金)	5月独IFO景況指数
5/8(水)	3月独鉱工業生産		4月米耐久財受注
5/9(木)	4月中国消費者物価指数	5/28(火)	5月米消費者信頼感指数
5/13(月)	4月米小売売上高	5/29(水)	5月独消費者物価指数・速報
5/14(火)	3月独・ユーロ圏ZEW景況感調査	5/30(木)	第1米四半期GDP・改定値
5/15(水)	第1四半期独・ユーロ圏GDP	5/31(金)	4月ユーロ圏失業率
	4月米鉱工業生産		5月ユーロ圏消費者物価指数・速報
5/16(木)	4月米住宅着工件数		5月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# GBP / JPY

## ポンド/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	143.26円	153.85円	140.38円	151.32円



- ① 4日、日銀がマネタリーベースを2年で2倍に増やすことなどを盛り込んだ「質的・量的緩和」を発表すると、市場予想を大幅に上回る緩和策を受けて大幅に円安・ポンド高が進行した。
- ② 5日、東京市場で国債先物が大幅安となったことや、米3月雇用統計の弱い結果にも関わらず円の先安観が強い中でドル/円が上昇したこと、さらに米雇用統計を受けてポンド/ドルではポンド高・ドル安が進んだことを背景にポンド/円は大幅に上昇した。
- ③ 10日、欧州株高や、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録にて「メンバー数人は年末までのQE(量的緩和)停止を想定」「複数のメンバーは今年の半ばにQE縮小を想定」との記載があったことを背景にドル/円が上昇すると、ポンド/円は上昇した。
- ④ 12日、日銀の長期国債買い入れオペ後に円債利回りが上昇すると、円高が進行。さらに、キプロスが追加支援を要請との噂(その後否定された)が広がったことを受けてユーロ/円が急落するとポンド/円も一段安となった。また、NY市場では米財務省が為替報告書で「日本の通貨政策を注意深く監視する」「日本は通貨安競争を避けるべき」「日本に対してG7、G20での確約を守るように主張する」との見解を示したことを受けてドル/円が下落すると、ポンド/円も一段安となった。
- ⑤ 15日、中国第1四半期国内総生産(GDP)が前年比+7.7%(市場予想:+8.0%)などと弱い結果となったことを受けてアジア株や商品価格が大きく下落した上、米経済指標の弱い結果を受けてドル/円が下落したこと、米ボストンで爆弾テロが発生しリスク回避ムードが急速に広がったことを受け、ポンド/円は大きく値を下げた。
- ⑥ 17日、英中銀(BOE)議事録では資産買い入れ枠拡大に賛成するメンバーに変化はなかったものの特に材料視されず、同時に発表された国際労働機関(ILLO)基準の昨年12月-今年2月の失業者数が2011年11月発表分以来の増加幅となる7万人増の256万人となった上、同基準での失業率は7.9%に上昇したことを受けてポンド売りが強まる場面があった。
- ⑦ 19日、欧州株が堅調に始まったことからポンド/円は上昇。しかし、それ以上の上値は伸びず、その後は反落。さらに格付け会社フィッチが英国を格下げするとポンド売りが加速した。
- ⑧ 25日、英第1四半期GDP・速報値が前期比+0.3%(予想:+0.1%、前期:-0.3%)、前年比+0.6%(同+0.4%、+0.2%)と、予想を上回る結果だったことを受け、ポンドは急騰。米新規失業保険申請件数が予想より強い結果だったことからドル/円が上昇したことも追い風となり、153.77円の高値をつけた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## GBP / JPY

## 今月のポイント

4月のポンド/円相場は140.38円～151.32円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.7%の上昇(ポンド高・円安)となった。

4月のポンド/円はほぼドル/円に連れる展開。円の先安観が根強い中で上昇したが、ドル/円が100円手前で上値を抑えられたのと同様に、ポンド/円も154円手前で頭が重い状態だった。英国の雇用統計、英GDPの結果、格付け会社による英国の格下げなど、単発の独自材料を受けて動く様子も見られたが、流れを変化させるほどの大きな材料にはならなかった。

5月についても、ポンド/円が独自の動きを見せる公算は小さい。4月の円相場を支えた黒田日銀総裁による緩和を背景とする「円の先安観」をよりどころとする円売りはやや一服感が出ており、ポンド/円の下値を支える可能性はあるものの、押し上げる力には欠けるとみる。また、英国についても、第1四半期国内総生産(GDP)・速報値が市場予想を大幅に上回る結果となる中で資産買入枠を拡大する大義名分は薄れてしまっており、当面政策据え置き公算だ。こうした状況下で、ポンド/円は先月に続き、ドル/円や他のクロス円、主要国株価などに連れる主体性に欠ける相場が続くそうだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 147.50～155.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

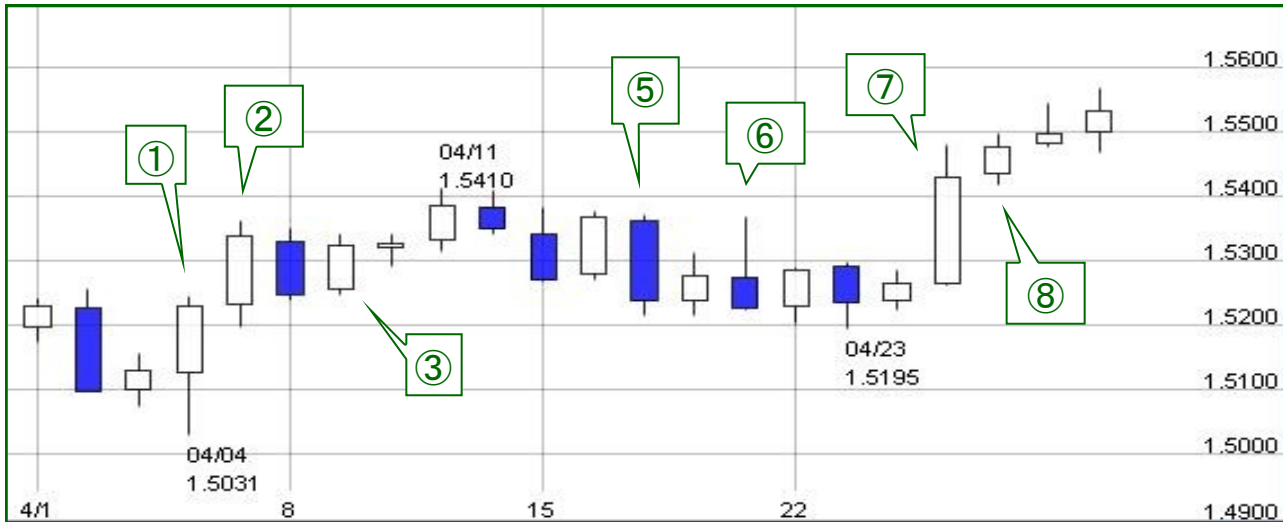
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(水)	4月英PMI製造業		3月英商品貿易収支
	4月米ADP全国雇用者数	5/15(水)	4月英雇用統計
	4月米ISM製造業景況指数		BOEインフレ報告
5/2(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (4月3・4日分)	5/16(火)	3月日機械受注
	4月英PMI建設業	5/21(火)	4月英消費者物価指数
5/3(金)	3月英PMIサービス業		4月英生産者物価指数
	4月米雇用統計	5/22(水)	4月日通関ベース貿易収支
	4月米ISM非製造業景況指数		BOE議事録
5/9(木)	3月英鉱工業生産	5/23(木)	3月英小売売上高指数
	BOE政策金利発表		第1四半期英GDP・速報値
5/10(金)	3月日経常収支	5/27(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨(4月26日分)
	3月日貿易収支		第1四半期米GDP・速報値

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/USD

## ポンドドル 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.5196ドル	1.5566ドル	1.5031ドル	1.5530ドル



- ① 4日、日銀の異次元緩和発表後、ドル/円が急騰するとポンド/ドルでもドル買い優勢となり、1.5031ドルまで値を下げた。ただ、欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が「キプロスに関する合意は(今後の)雛型ではない」等と発言した事を受けてリスク許容度が拡大するとポンドは反発。さらに一時下げていたNYダウ平均が切り返したことでNY市場には大幅高となった。
- ② 5日、米3月雇用統計は失業率7.6%(市場予想:7.7%)、非農業部門雇用者数が8.8万人増と(同19.0万人増)との結果になった。非農業部門雇用者数が市場予想を大幅に下回った上、失業率の改善が労働参加率の低下を由来したものだことからドル売りが強まり、ポンド/ドルは1.5361ドルまで上昇した。
- ③ 9日、英2月鉱工業生産が前月比+1.0%と市場予想(+0.4%)よりも良好な結果だったことを受けてポンドは上昇。さらに、ロンドン16時(日本時間24時)に向けたフィクシングに向けたドル売りやNYダウ平均の上昇なども追い風となり、1.5341ドルまで値を伸ばした。
- ④ 15日、中国第1四半期国内総生産(GDP)が前年比+7.7%(市場予想:+8.0%)、3月鉱工業生産が前年比+8.9%(同:+10.1%)、3月小売売上が+12.6%(同:+12.6%)という結果になった。これを受けてアジア株や商品価格が大きく下落すると、ポンド/ドルは失速。さらに、米4月ニューヨーク連銀製造業景気指数が3.05と市場予想(7.00)を下回ったことを受けてNYダウ平均が大きく下げた上、5時前に米ボストンにて爆発事件が発生したことを背景にポンド/ドルは1.5268ドルまで一段安となった。
- ⑤ 17日、英中銀(BOE)議事録では資産買い入れ枠拡大に賛成するメンバーに変化はなかったものの特に材料視されず、同時に発表された国際労働機関(ILO)基準の昨年12月-今年2月の失業者数が2011年11月発表分以来の増加幅となる7万人増の256万人となった上、同基準での失業率は7.9%に上昇したことを受けてポンド売りが強まる場面があった。
- ⑥ 19日、欧州株が堅調に始まったことからポンド/ドルは上昇。しかし、上昇一服後は失速。さらに格付け会社フィッチが英国を格下げするとポンド売りが加速した。
- ⑦ 25日、英国第1四半期GDP・速報値、前期比+0.3%(予想:+0.1%、前期:-0.3%)、前年比+0.6%(同+0.4%、+0.2%)と、予想を上回る結果だったことを受け、ポンドは急騰。独政府が2013年GDP成長率見通しを従来の0.4%から0.5%に上方修正しユーロ/ドルが上昇したこともポンド/ドルの追い風となった。
- ⑧ 26日、欧州株下落を受けてポンド/ドルは軟調に推移するも、1.5416ドルまで下げた後は反発。米第1四半期GDP・速報値が前期比年率+2.5%(予想:+3.0%)と予想を下回るとドル売りが強まり、1.5497ドルまで値を上げた。

↑ 巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## GBP/USD

## 今月のポイント

4月のポンド/ドル相場は1.5031ドル～1.5566ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.2%の上昇(ポンド高・ドル安)と、堅調な推移となった。

4月のポンド/ドルはキプロス問題の一旦の着地や、イタリアの政局不安がレッタ新首相を軸とする政権樹立で落ち着いた上、NYダウ平均など株価が堅調に推移する中で上昇した。さらに、米国では雇用統計以降、それまで根強かった米量的緩和(QE)の早期縮小・停止観測が後退したことがドル売り要因に、英追加緩和観測が後退したことがポンド買い要因になったこともポンド/ドルを押し上げる要因となった。

5月について、欧州の債務問題に対する悲観論が一服している限り、主要国株価や資源価格は堅調に推移すると見ている。英国の経済指標に好悪入り混じっている現状ではすぐに英追加緩和観測が台頭しにくいと考えられる上、英国系の材料はポンド/ドルにとっては「単発」の変動要因以上にはなりえないと見る。一方、米国についても、すぐの政策変更があるとは考えにくい。ただ、こちらについては「QEの早期縮小・停止観測」の強弱がドルを動かす要因になっていることもあり、米国の各種経済指標結果から見て行く必要がある。4月のように米経済指標に弱めのものが続き、同観測が一段と後退すれば、株高と相まってポンド/ドルは堅調に推移しそうだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 1.5200～1.5850ドル)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(水)	4月英PMI製造業		BOEインフレ報告
	4月米ADP全国雇用者数		4月米鉱工業生産
	4月米ISM製造業景況指数	5/16(火)	4月米消費者物価指数
	FOMC政策金利発表	5/17(金)	5月米ミンガン大消費者信頼感指数・速報値
5/2(木)	4月英PMI建設業	5/21(火)	4月英消費者物価指数
5/3(金)	3月英PMIサービス業	5/22(水)	BOE議事録
	4月米雇用統計	5/23(木)	3月英小売売上高指数
	4月米ISM非製造業景況指数		第1四半期英GDP・速報値
5/9(木)	3月英鉱工業生産		FOMC議事録(4月30日・5月1日分)
	BOE政策金利発表	5/28(火)	5月米リッチモンド連銀製造業指数
5/10(金)	3月英商品貿易収支		5月米消費者信頼感指数
5/13(月)	4月米小売売上高		第1四半期米GDP・速報値
5/15(水)	4月英雇用統計	5/30(木)	4月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。